

回復期リハビリテーション病棟での 感染対策について

回復期リハビリテーション病棟 看護師長 稲田 真由美
感染管理認定看護師

皆様こんにちは。令和6年4月より呉医療センターから異動して参りました稲田真由美と申します。私は現在回復期リハビリテーション病棟の看護師長と兼任で、感染管理認定看護師として活動しています。どうぞよろしくお願いいたします。

感染管理認定看護師の役割は、患者さんを感染から守ること、医療環境で医療従事者と面会者等を感染から守ることです。

私が所属する回復期リハビリテーション病棟は、急性期治療を終えた脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの患者さんが、自宅退院を目標に日常生活機能の向上・回復を目指してリハビリテーションを行う病棟です。リハビリテーション看護では、患者さんが住み慣れた暮らしを取り戻すために、日常生活活動の援助を積極的に行っています。そのため看護師と患者さんとの距離が近いことによる感染のリスクがあります。また、離床目的として患者さんは可能な限りラウンジに出て食事を食べられるため、患者さん同士の距離が近いことによる感染のリスクがあります。

当病棟では、昨年8月に新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団感染）が発生しました。患者さんだけでなく、看護師やリハビリスタッフも感染しました。これにより患者さんはラウンジでの食事摂取が中止、リハビリ室でのリハビリも中止となり、患者さんの入院生活やリハビリテーションに大きな影響が出ました。感染対策は、感染が起っていない平時より実施することが重要です。一事例でも感染が起きた時は、拡大している可能性が高いです。私は病棟の看護師長として、日々現場の看



護師・リハビリスタッフに対して、手指消毒、喀痰吸引や食事介助時のゴーグル装着、患者さんのベッド周囲の環境清掃などの感染対策について指導を行っています。これからも、患者さんが安心して入院生活を送り自宅退院できるように、感染管理認定看護師としての強みを活かしながら、現場で看護師長として感染対策の指導を続けていきたいと思っています。

感染対策はひとりではできません。病院全体で取り組む必要があります。まずは自部署を感染対策のモデル病棟として構築することを目指し、院内全体の感染対策の底上げを図るように尽力したいと考えています。入院中の患者さんだけでなく、家族の方や面会に来られる方、通院中の患者さん！

正しい手洗いの方法や、マスクの装着方法など感染予防に関して分からないことがあれば気軽に声をかけてくださいね。

